



祐介の目

大田ゆうすけ No.93
(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

事件の石川青年に対して激励の手紙も書かされたし、学校に国旗は無く、卒業式等で国歌を歌うことも無かった。そのような広島県の公教育の歪の最たる例が国旗国歌を巡り教職員と対立した世羅高校の校長の自殺ではなかったか。参議院の文教科学委員長を務められた先生は国旗国歌法の成立に尽力し、部落解放同盟の小森龍邦書記長とも渡り合い、広島県の公教育の正常化に多大な貢献をされたと感じている。

5月15日、元参議院議員の亀井郁夫先生が亡くなられ「やまなみ街道」を通じて庄原市川北町のご実家に弔問に訪れた。真正正銘の山奥であり、ここで日本を代表する政治家・亀井兄弟が育ったと思うと感慨深いものがあった。

郁夫先生は苦学の末に東大卒業後、旭化成に入社して山口信夫(後の日本商工会議所会頭・歩兵第41連隊出身)らと旭化成を日本一の総合化学会社に躍進させた。私は同社が開発したマイクロローザという中空糸膜部門を先生に紹介して頂き、芦田川河口堰の開放に向けて下水道の膜処理の活用を研究してきた。郁夫先生亡き後もいつかは実現したい。

そもそも郁夫先生との出会いは、平成10年頃に私の両親が立ち上げた「福山の教育を考える会」のご支援をいただいた事だ。私の小学生時代を振り返れば同和教育全盛期であり、狭山

私は自他ともに認める亀井党であったが、亀井兄弟が郵政民営化に反対して自民党を離党した際に多くの支援者が離れていくのを見るのは辛かった。大勢に背いて自分のポリシーを貫く事は勇気が必要だ。同時期に私も市長が推進する鞆の埋め立て架橋計画に反対した。その結果、長期間にわたり冷や飯を食うことになったが、国民新党が与党の一翼を担った際に多くの支援者が戻ってきた様子も見たので気にする事も無かった。

親族代表の挨拶は実弟の静香先生であり、締めくくりの言葉は「兄は公私ともに幸せな人生であった」。今までに聞いた静香先生のご挨拶の中で最も秀逸であったと思う。仲の良い兄弟であった。